

英語の時制と叙法の研究

第1巻第1号(通巻1号)

1999年3月6日発行

於・青山学院大学 中澤和夫先生卒業論文発表会

卒業論文『英語の時制の研究』1999.1.15

青山学院大学文学部第二部英米文学科4年 林 靖久

英語の時制は実は時とはあまり関係のないものなのです。ただそれは二次的に時の順序も表現できるというだけだったのです。中学以来いくつかの疑問が僕を悩ませていましたが、この理論の開発でそれはすっきりと氷解したと自負しています。このレジュメは卒論自身に多少補足したのですが、同様の意見の方が増えればと思います。はじめは手探りで研究していたのですが、戦前にほぼ同様の学術論文があることもわかりました。現在、時制についての論著はほとんど皆無に等しく、本論でも引用させて頂いている細江博士の『動詞時制の研究』『動詞叙法の研究』が唯一、本質をついた書であろうと思います。いまでは古書としてしか手に入りませんが、西早稲田の五十嵐書店(03-3202-8201)ではいまだによく売れているとか(神田神保町の半額だったのがうれしい)。ただし、細江博士は助動詞の構文の考え方がいまひとつで、時枝誠記の『日本文法』にみる主観法と客観法という考え方(前者を辭の表現、後者を詞の表現という。)がなかったため、『想像(推測)叙述』(未来時制)を認め、直説法過去と同じカテゴリに分類してしまうというような誤りを犯していました。僕の論にはこうした不具合は最初からありません。少し内容の重複した箇所はありますが...(^_^;)もし少しでもこの理論に興味をもって頂ければ幸いです。なお、当たり前ながら、本文の無断転載、盗用を禁じます。

論文の目次

これは実際の卒業論文の目次です。

- 序論 1
- 本論 2
 - ・ 内と外 2
 - A. 動詞時制の研究 2
 - ・ 主観法と客観法 6
 - A. 時枝国文法の詞と辞 6
 - B. 主観法と客観法 8
 - ・ 動詞の屈折形 12
 - A. 形態的二法二時制 12
 - B. 完了相と時制の一致 21
 - (1) 完了相 21
 - (2) 時制の一致 29
 - C. 現在形 31
 - 1. 直説法現在とは 31
 - a. 単数現在 33
 - b. 普遍の真理 33
 - c. 劇句現在 33
 - D. 過去形 33
 - 1. 直説法過去 33
 - 2. PEの仮定法 35
 - (1) 仮定法概観 35
 - (a) 仮定法の構造 35
 - (b) 仮定法の消滅と法助動詞 37
 - (c) 動詞の無屈折語化傾向 41
 - (d) 正のない仮定法 42
 - (e) 直説法現在のIfと直説法過去のIf 45
 - E. 不定形 45
 - 1. 命令法と仮定法現在 45
- ・ まとめ 47
- ・ 引証資料リスト 51